



ウメモト インフォメーション



2020 年 12 月 24 日

担当者: 岩崎

IEA 2020 2021年 世界石油 需要見直し 下方修正 「ワクチン効果は数カ月後」

【ロンドン】IEA（国際エネルギー機関）は15日、2020年と2021年の世界石油需要の見直しを下方修正したことを明らかにした。

IEAは今回、新型コロナウイルスのワクチンによる石油需要への効果が得られるまで、数カ月かかるとの見解を発表。ワクチン効果の遅れによりシェット燃料需要がせい弱にとどまり、欧州の需要が第4四半期（10月12月）に減少するため、2020年の需要見直しを前回予想から5万バレル、2021年を17万バレルそれぞれ引き下げたとした。

しかしOPEC（石油輸出国機構）プラスの協調減産が奏功し、世界の原油在庫は2021年7月までに2019年末の水準を下回る見込みを示した。

2020 年 12 月 24 日

担当者: 岩崎

各専門家

シェール軽視続く

要因は投資家の要求などが

【ニューヨーク・P・W誌特約】米国のシェール業界を過小評価する者は、危険を覚悟でそうしていることは歴史が示している。だがEIA（米エネルギー情報局）を含めた各専門家は、シェール業界を駄目だとみなす行為をやめなさい。彼らは、原油価格低迷、油井減少、資本効率に関する投資家の要求などの組み合わせが原因となる力がシェール部門を停滞させていると考えている。

これらの要因によることと予想している。最新のデータによれば、米国の生産量は増えているが、主としてハリケーンが多発したシーズン後、メキシコ湾で回復したためだ。EIAは、米国の生産量について、11月は第4週の平均1180万バレル、10月の1090万バレルから増加し、全体で平均1120万バレルになると予想している。EIG（エナジー・インテリジェンス・グループ）の予想はこれよりもやや強気で、2020年は1140万バレル、2021-2022年は平均1140万バレルを、やや上回りの、2023年は1190万バレルになるとしている。

また業界内での統合、合併により、規模が大きくなり相乗効果が生み出されている。フランス連邦準備銀行による最近の調査では、シェール企業各社が必要とする既存の油井操業上の経費を賄うためのコストは、ほとんどの油田で30%以下と報告されている。掘削コストを含めても、パーミアン盆地では40%以下でも利益をあげる事が可能だと

指摘する向きも多い。同氏はシェールの復活はすでに進行中だと述べ、米国の生産量は過去3週間の平均が1200万バレル以上、過去2週間では1220万バレルと試算している。将来のシェールの成長の余地については、石油企業各社のFCF（フリーキャッシュフロー）を賄うことも負

債削減を要求する各投資家を満足させる必要性によって複雑になっている。株主はシェールブーム時代に莫大な資本を台なしにした借金を原動力とするビジネスモデルを受け入れない。それにより米国のE&P（石油の探査・生産）部門は、株式市場で遅れをとっている。だが潮目は変わりつつあるかもしれない。原油高および新型コナナのブチンへの期待を背景に、E&P関連株は11月初め以来、急上昇している。業界内では資本効率が向上しつつあり、各投資家は、この業界が新型コロナウイルス後の世界において、市場でほかを圧倒するという勝負があるとみている。

一方、OPECプラサが終りのない減産から抜け出せないなかでも需要が回復しているため、原油価格は2021年さらに上昇しそうだ。金融企業モルガン・スタンレーは、米国のE&P部門のFCFは過去10年間ほとんどマ

イナスだったが、WTI（ウエスト・テキサス・インターティエート）原油が平均50%になれば、来年発生するFCFのイーロード（利回り）は市場の一般的水準よりも倍高い平均11%になると言っている。原因の一部はキャピタル・ティーン（投資方針の厳格な適用）によって説明可能だが、モルガン・スタンレーは生産を維持するために必要な原油価格の損益分岐点を有意に下落させてきた持続的な効率的性についても指摘した。

つまりシェール業界は、急落の場面で有利になるかもしれない。4月以来、ミッドランド、テラウェア、イグルフォード、ウィリストン、DJの主要なシェールオイル盆地5カ所におけるサイクル全体の損益分岐点は4%あるが8%減少し、平均46%となっている。金融企業JPモルガン・チェースは指摘している。また同社は、シェールの油井における生産の伸びが緩慢になっている一

方、業界のスケールが拡大し続け、サービスに関するコストが低水準に抑えられているため、いぜん増産のため効率的性向上の余地はあるという。石油リテ移動数は8月、最低水準172基まで減少したが、現在は258基に回復している。さらに2022-2025年に供給逼迫の到来を予想する専門家もいる。昨今の上流部門への投資が振るわないことの影響が、完全な需給回復とつながり合う恐れがあるとの見方だ。

シェール企業各社は、原油価格上昇とった市場のシグナルに対し、供給量をすばやく増やして応えることで利益を得られる可能性がある。供給が逼迫するとみる者は、現在の膨大なOPECプラスの生産余力でさえも現行の投資低迷による影響を相殺するのには十分ではないという。

EIA（国際エネルギー機関）およびOPECは、2030年までに石油換算で約7000万バレルまで拡大すると予測されている供給と需要のギャップを埋めるためには、2022年までに新たに石油換算2700万バレルが必要になると考えている。非営利組織IEF（エンターテインメント）とコンサルタント企業ホブソン・コンサ

ルティンク・グループによる新たな合同報告書によると、危機を阻止するため、業界への投資を今後3年間で、2020年の水準から年間25%増やさなければならぬという。

燃料油脂新聞

引用記事 : 日本

化学工業日報

ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他()

2020年12月24日

担当者: 岩崎

中国11月過剰在庫が解消 原油輸入量増加

【北京】中国の原油輸入量が11月、前月から増加したことが明らかになった。

GAC（中国海関総署）によると、独立系企業各社による購入が減速したが、前月の4256万トンから増加し4536万トン（1104万トン）に達したという。11月は、前年同期比9・5%増の5億392万トン（1098万トン）とした。

11月の輸入量増は過剰在庫の解消が要因。中国の海上在庫は9月初め、各港の過密により、9600万トンのピークに達したが、11月末には約3000万トンまで減少したという。

またMOC（中国商務部）は、2021年の民間企業各社への原油輸入枠を合計2億4300万トンまで、前年比20%引き上げる方針を示している。

ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他()

2020年12月29日

担当者: 岩崎

2021年1月減少の見通し

シエールオイル 過去7カ月間で最低全米生産量

【ニューヨーク】全米連続減少、前月比13万6000トン減の744万トンが見込みだという。テキサス州とニューメキシコ州に広がるパーミアン盆地で2万5600トン減の

EIA(米エネルギー情報局)によると、主要シエール層7カ所で5月以来最長の4カ

全米ガソリン需要19%減

23年振りの最低水準に

含む週祭第4感謝祭11月

【ニューヨーク】全米のガソリン需要が11月26日の感謝祭を含む11月第4週、1997年以来の最低水準まで減少したことが明らかになった。情報筋によると、国内中部が前年同週比23.3%、ニュージャージー州が約30%それぞれ大幅に減少していると指摘している。

新型コロナウイルス感染再拡大を受け、各地方当局が外出制限を実施したことが主な原因だとした。

情報筋は、ガソリン需要が12月末までにさらに悪化する可能性がある



ウメモト インフォメーション



2020 年 12 月 24 日

担当者: 岩崎

サウジ 石油収益30%減か

2020 年見通し

【リヤド】サウジアラビア政府が15日、石油による収益が2020年、前年比30%減少する見通しを明らかにした。政府によると、新型コロナウイルスの

世界的流行の影響で収益は、GDP（国内総生産）の4・9%に相当する1410億リアル（約37・6億ドル）（約37・6億ドル）縮小する見込み。そのためGDP12%相当の2980億リアル（約794億ドル）の損失を計

上する見通しとした。

一方、今年の赤字計上を考慮し、2021年の予算を7%減の9900億リアル（約2640億ドル）に決めた。政府は、収支のバラ

ンスを2023年までにとの計画としている。またADCB（アラビヤ商業銀行）のエクソミストは、サウジアラムコの配当金や投資の回収が2021年の予算を支える主要な要因になる可能性を指摘した。